

# レボフロキサシン錠の生物学的同等性に関わる資料

ニプロESファーマ株式会社

## レボフロキサシン錠 250mg 「タナベ」

レボフロキサシン錠 250mg 「タナベ」(試験製剤)について、「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」(医薬審第 487 号：平成 9 年 12 月 22 日、薬食審査発 0229 第 10 号：平成 24 年 2 月 29 日一部改正)に準拠して、生物学的同等性試験を実施した。

試験製剤(Lot No. YBLB)と標準製剤(先発医薬品)をそれぞれ 1 錠(レボフロキサシンとして 250mg 含有)、2 剤 2 期クロスオーバー法(休薬期間：7 日間以上)により健康成人男子(7 名/群、計 14 名)に投与前 10 時間以上の絶食後、150mL の水とともに単回経口投与した。投与前(0 時間)、投与後 1/3、2/3、1、1.5、2、3、4、8、12、24 および 36 時間の計 12 時点で、前腕静脈から 1 回につき 10mL (血漿として 3mL 以上)の血液をヘパリン加真空採血管で採取した。

採取した全ての血液を遠心分離し、得られた血漿中のレボフロキサシン濃度を HPLC 法により測定した(定量限界：0.02 $\mu$ g/mL)。得られた濃度値から下表に示す如く薬物動態学的パラメータを算出した。また、平均及び被験者別の血漿中レボフロキサシン濃度推移をそれぞれ図 1 及び図 2 に示す。

両剤の Cmax および AUC<sub>0-36</sub> の対数値の平均値の差の 90%信頼区間は、それぞれ log(0.9065) ~ log(1.1736) および log(0.9735) ~ log(1.0509) であり、いずれもガイドラインの基準である log(0.80) ~ log(1.25) の範囲内であった。

以上の結果より、試験製剤と標準製剤は生物学的に同等であると判定した。

薬物動態学的パラメータ(平均±標準偏差, n=14)

	レボフロキサシン錠 250mg 「タナベ」	標準製剤(錠剤, 250 mg)
Cmax ( $\mu$ g/mL)	3.523±0.771	3.441±0.771
AUC <sub>0-36</sub> ( $\mu$ g · hr/mL)	27.587±4.549	27.290±4.537
AUC <sub>0-∞</sub> ( $\mu$ g · hr/mL)	28.286±4.906	27.954±4.827
Tmax (hr)	1.38±0.41	1.73±1.85
MRT <sub>0-36</sub> (hr)	8.49±0.81	8.72±1.38
MRT <sub>0-∞</sub> (hr)	9.36±1.14	9.55±1.57
kel (hr <sup>-1</sup> )	0.1046±0.0098	0.1070±0.0113
t <sub>1/2</sub> (hr)	6.68±0.64	6.55±0.71

Cmax：最高血漿中濃度、AUC：濃度-時間曲線下面積、Tmax：最高血漿中濃度到達時間、MRT：平均滞留時間、kel：消失速度定数、t<sub>1/2</sub>：消失半減期

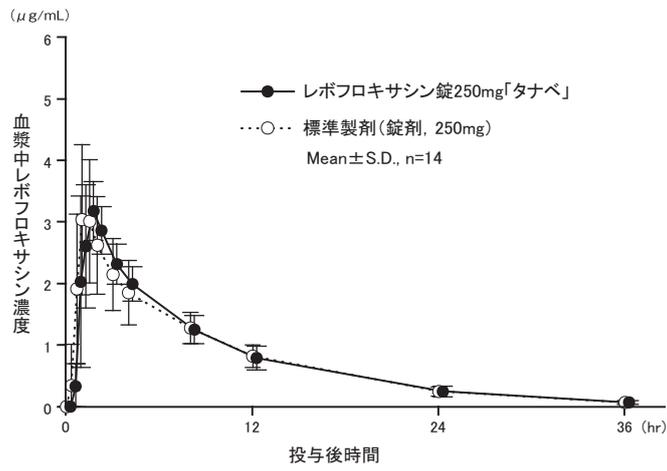


図 1. 平均血漿中レボフロキサシン濃度推移

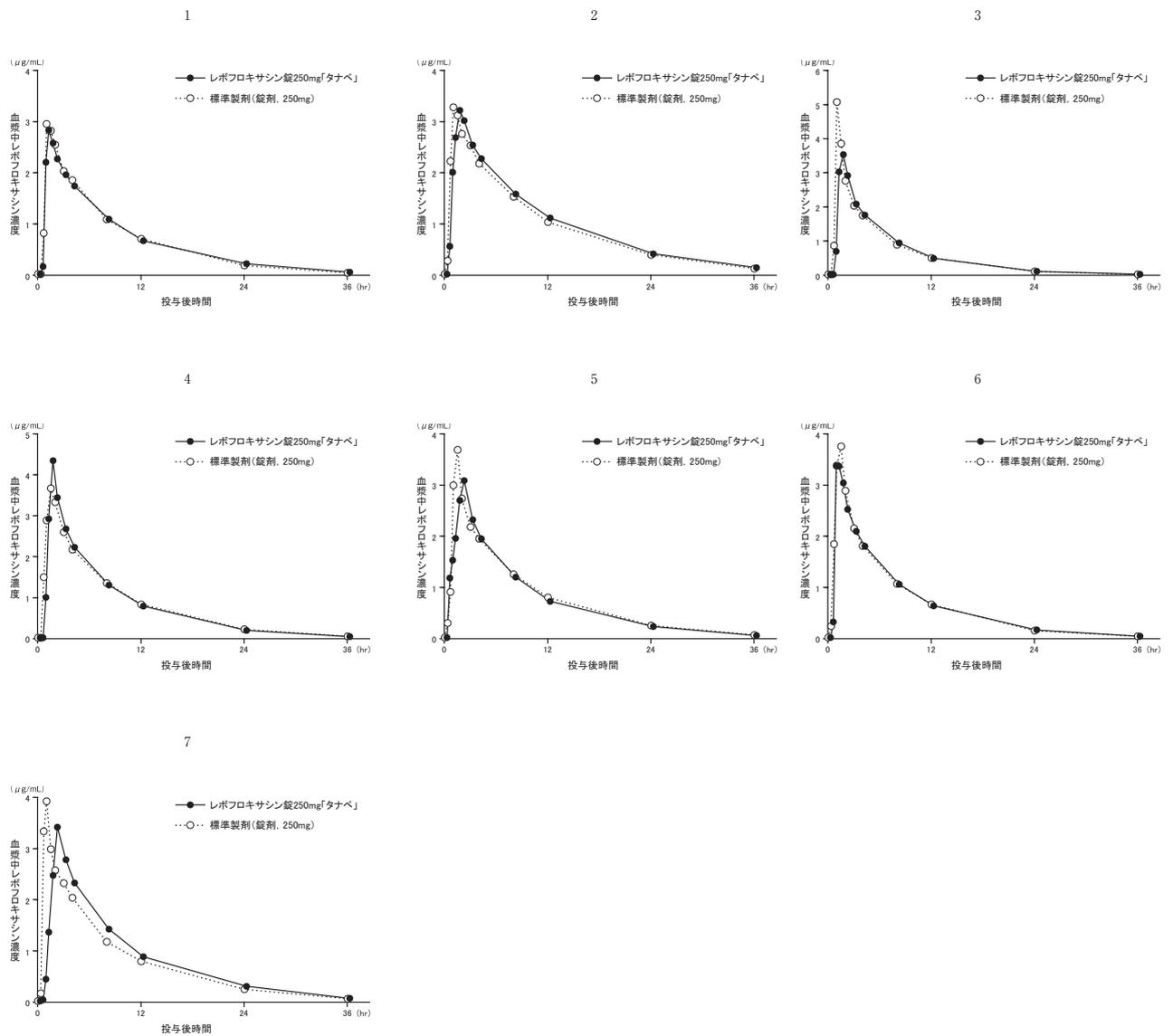
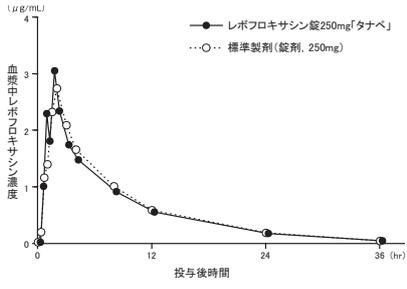
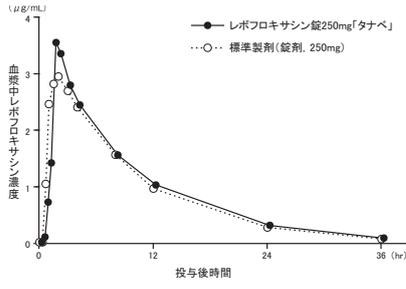


図 2-1. 被験者別血漿中レボフロキサシン濃度推移 — 試験製剤先行群(A 群) —

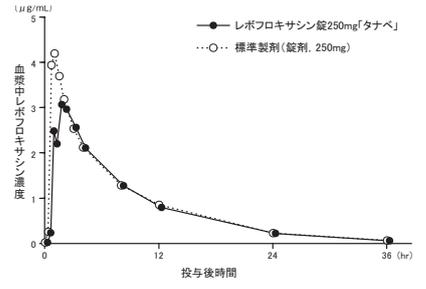
8



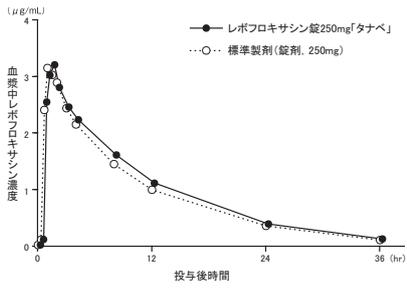
9



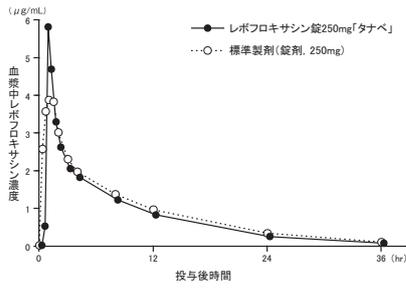
10



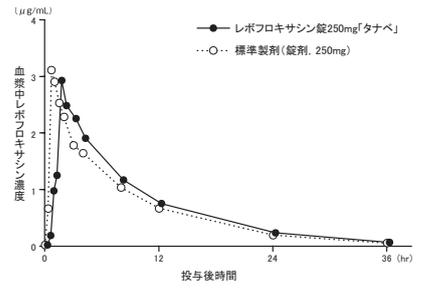
11



12



13



14

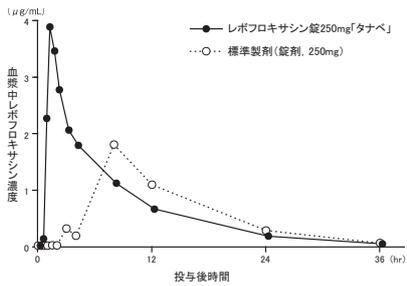


図 2-2. 被験者別血漿中レボフロキサシン濃度推移 —標準製剤先行群(B群)—

## レボフロキサシン錠 500mg 「タナベ」

レボフロキサシン錠 500mg 「タナベ」(試験製剤)について、「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」(医薬審第 487 号：平成 9 年 12 月 22 日、薬食審査発 0229 第 10 号：平成 24 年 2 月 29 日一部改正)に準拠して、生物学的同等性試験を実施した。

試験製剤(Lot No. YBMC)と標準製剤(先発医薬品)をそれぞれ 1 錠(レボフロキサシンとして 500mg 含有)、2 剤 2 期クロスオーバー法(休薬期間：7 日間以上)により健康成人男子(7 名/群、計 14 名)に投与前 10 時間以上の絶食後、150mL の水とともに単回経口投与した。投与前(0 時間)、投与後 1/3、2/3、1、1.5、2、3、4、8、12、24 および 36 時間の計 12 時点で、前腕静脈から 1 回につき 10mL (血漿として 3mL 以上)の血液をヘパリン加真空採血管で採取した。

採取した全ての血液を遠心分離し、得られた血漿中のレボフロキサシン濃度を HPLC 法により測定した(定量限界：0.02 $\mu$ g/mL)。得られた濃度値から下表に示す如く薬物動態学的パラメータを算出した。また、平均及び被験者別の血漿中レボフロキサシン濃度推移をそれぞれ図 1 及び図 2 に示す。

両剤の Cmax および AUC<sub>0-36</sub> の対数値の平均値の差の 90%信頼区間は、それぞれ log(0.8220) ~ log(0.9809) および log(0.9984) ~ log(1.0302) であり、いずれもガイドラインの基準である log(0.80) ~ log(1.25) の範囲内であった。

以上の結果より、試験製剤と標準製剤は生物学的に同等であると判定した。

薬物動態学的パラメータ(平均±標準偏差, n=14)

	レボフロキサシン錠 500mg 「タナベ」	標準製剤(錠剤, 500mg)
Cmax ( $\mu$ g/mL)	6.114±1.045	6.862±1.390
AUC <sub>0-36</sub> ( $\mu$ g · hr/mL)	58.966±8.535	58.172±8.655
AUC <sub>0-∞</sub> ( $\mu$ g · hr/mL)	61.023±9.101	60.013±9.160
Tmax (hr)	1.83±0.75	1.44±0.90
MRT <sub>0-36</sub> (hr)	9.39±0.70	9.05±0.96
MRT <sub>0-∞</sub> (hr)	10.62±1.23	10.17±1.50
kel (hr <sup>-1</sup> )	0.0969±0.0125	0.0993±0.0125
t <sub>1/2</sub> (hr)	7.27±0.96	7.09±0.92

Cmax：最高血漿中濃度、AUC：濃度-時間曲線下面積、Tmax：最高血漿中濃度到達時間、MRT：平均滞留時間、ke：消失速度定数、t<sub>1/2</sub>：消失半減期

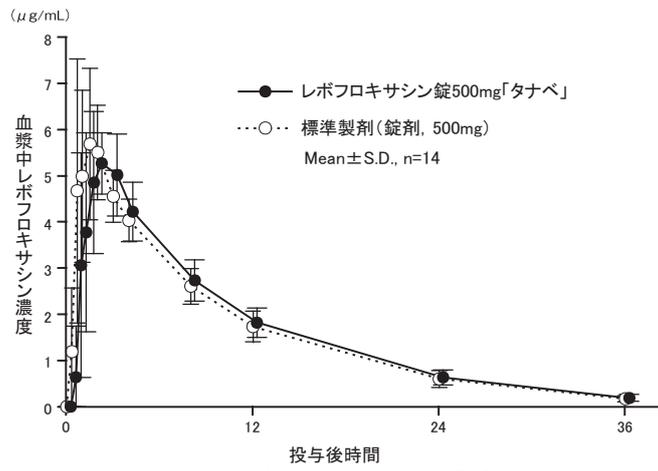


図 1. 平均血漿中レボフロキサシン濃度推移

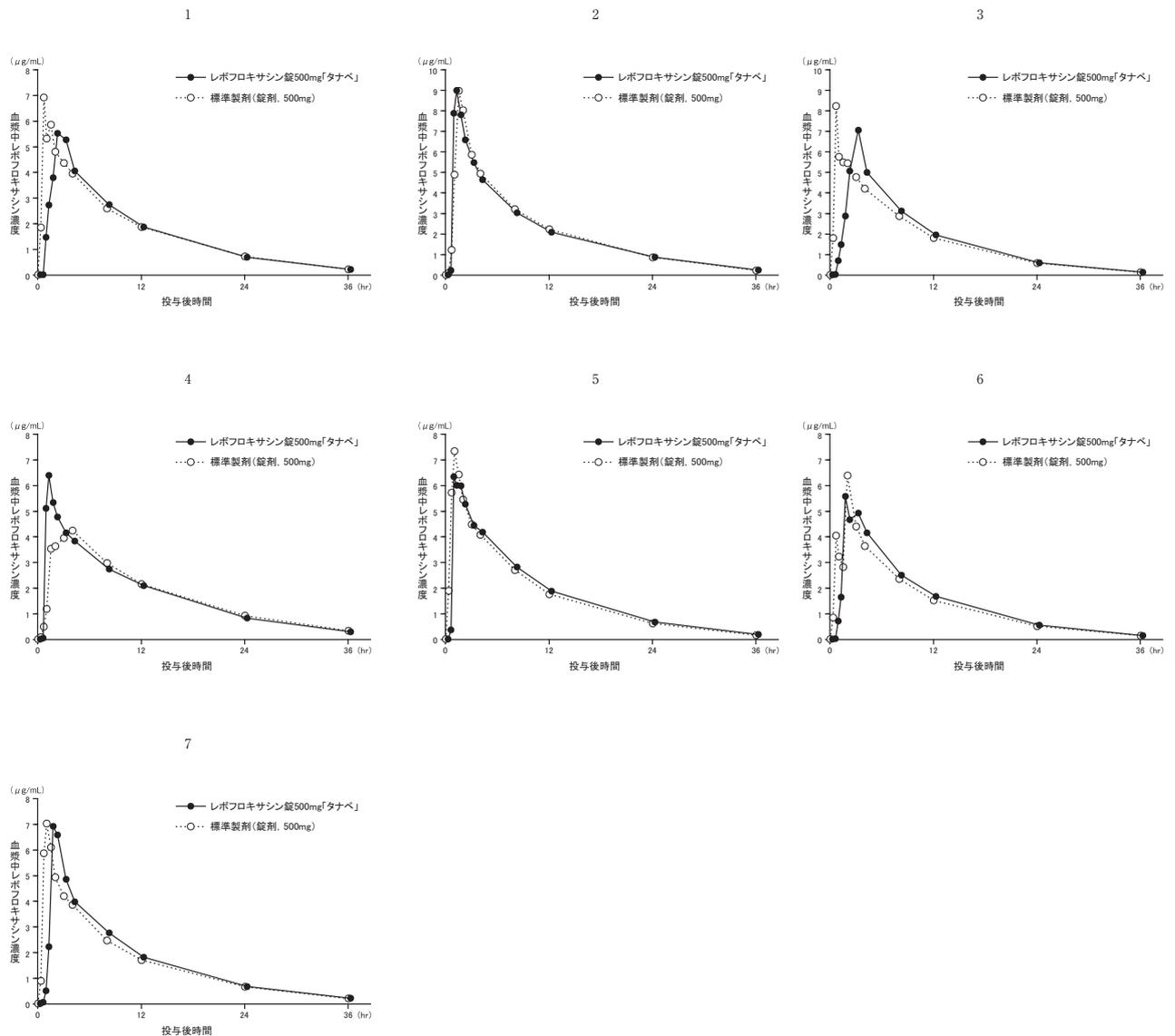
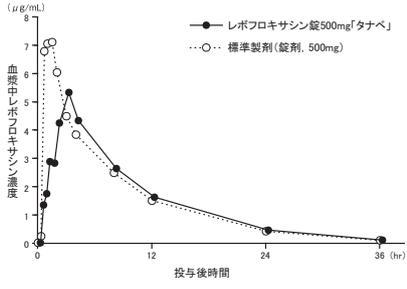
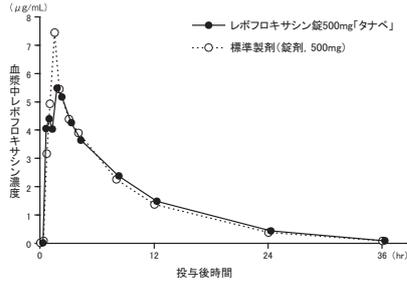


図 2-1. 被験者別血漿中レボフロキサシン濃度推移 —試験製剤先行群(A群)—

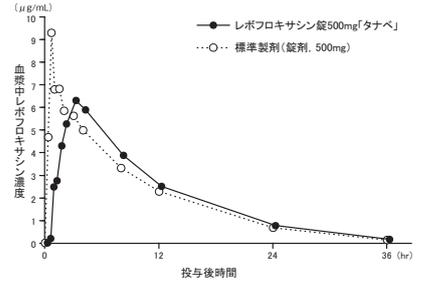
8



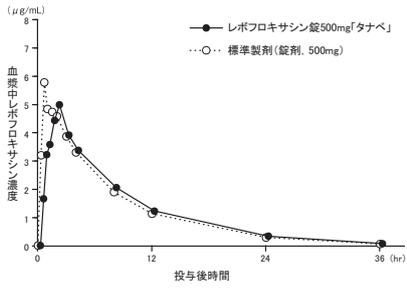
9



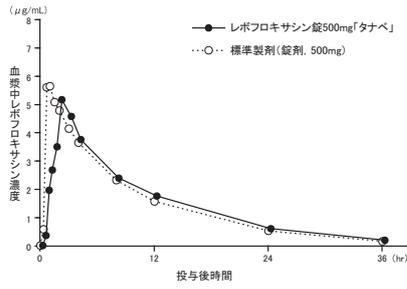
10



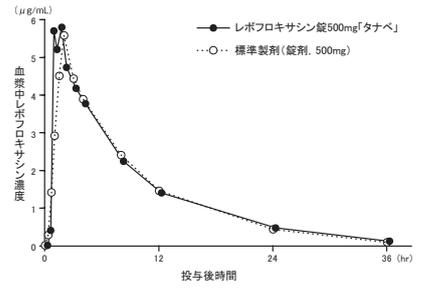
11



12



13



14

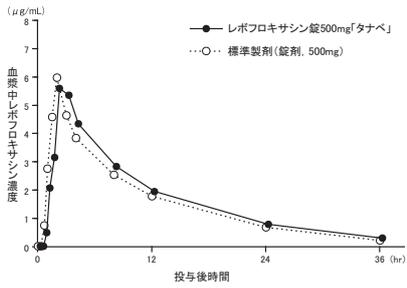


図 2-2. 被験者別血漿中レボフロキサシン濃度推移 —標準製剤先行群(B群)—